

# Predictive Factors for Rebleeding after Negative Capsule Endoscopy among Patients with Overt Obscure Gastrointestinal Bleeding

原田, 英

<https://hdl.handle.net/2324/4475000>

---

出版情報 : Kyushu University, 2020, 博士 (医学), 課程博士

バージョン :

権利関係 : Public access to the fulltext file is restricted for unavoidable reason (2)

氏 名： 原田 英

論 文 名： Predictive Factors for Rebleeding after Negative Capsule Endoscopy  
among Patients with Overt Obscure Gastrointestinal Bleeding  
(原因不明の消化管出血における再出血の予測因子)

区 分： 甲

### 論 文 内 容 の 要 旨

カプセル内視鏡検査（CE）は、原因不明消化管出血（OGIB）の評価に有用であるが、CEは顕性のOGIB患者の原因病変を常に特定するとは限らない。そこで、顕性のOGIB患者でCE施行後も出血源が不明であった症例の再出血を予測する因子の特定を目的とした。顕性のOGIBのためにCEを受けた221人の患者の臨床データを遡及的に分析した。CE所見が陰性の120人の患者のうち、CE後の112人の患者の臨床経過を追跡し、再出血に関連する臨床的要因および再出血の原因となる病変を調査した。CE所見陰性後のフォローアップ中に37人の患者（33.0%）で再出血が確認され、CE所見陰性後24か月以内に36人の患者（32.1%）が再出血を発症した。多変量解析では、顕性の消化管出血から24時間以内にCE施行が必要と臨床医が判断した症例および初回のCEで重度の貧血が、再出血に関連する独立した因子として抽出された。再出血源は13人の患者で同定された。CE所見陰性であった顕性のOGIB患者について再出血は稀ではない。出血から24時間以内にCEの施行が必要と臨床医が判断した患者、または重度の貧血のある患者は、CE所見陰性後の再出血のリスクが高いと考えられる。

